



公民

「現代社会の見方・考え方」をきたえ、 持続可能性に着目した国連学習

立命館大学非常勤講師・元公立中学校教員 河原和之

1 はじめに

新学習指導要領には、「『国際連合をはじめとする国際機構などの役割』については、国際連合における持続可能な開発のための取組についても触れること」とある。また、解説には、「単なる国際機構名などの知識の習得に終わることなく、なぜ現在このような国際機構が設立され活動しているのか、どのような目的をもって活動しているかなどを理解できるようにすることが大切である」とある。本稿では、『社会科 中学生の公民』（以下、教科書）p.176～177を中心に活用し、国際連合（以下、国連）に対する興味・関心を喚起しながら「現代社会の見方・考え方」をきたえる授業を紹介する。第1時は総会と安全保障理事会（以下、安保理）、第2時は世界保健機関（以下、WHO）と世界食糧計画（以下、WFP）を軸に、「協調」、「持続可能性」などに着目した内容とした。なお、本実践例は解決すべき課題と国連との関係を理解することが中心である。考察したことを表現したり議論したりすることは、次時以降で行っていききたい。

2 授業展開例

<第1時>

(1) 導入

国連学習は、生徒の興味・関心から距離があるため、切実性もち、意欲的に考えさせる工

夫が不可欠である。そこで、国連敷地内のモニュメントの一つである銃口がねじれたピストル（写真1）を導入とし、戦争や紛争をなくすという国連の役割を確認した。



写真1 銃口がねじれたピストル (marcorstock/PIXTA)

(2) 総会ではどのように話し合っているか

次に、教科書p.177「⑥総会」の写真を見せ、「国連には193か国が加盟している。総会で話し合うとき、言葉はどうしているか？」となげかけた。生徒は「自国語で話せば各国の言葉に通訳される」などと予想した。そこで、数種の言語が公用語となっており、公用語のどれかで話せばそのほかの公用語に通訳されると解説した。

その後、1973年より前までの公用語（5か国語）を考えさせたところ、英語や中国語などのほか日本語という意見も出たため、「日本語は公用語にはなっていない。なぜか？」と問うた。「国連がつくられたねらいと関係している」とヒントを与えると、「連合国の敵だったから」という意見があがった。「とすると、公用語になれない言語は？」と問うと、ドイツ語とイタリア語をあげることができた。そこで「1973年より前の公用語は英語、中国語、フランス語、ロシア語と、あと一つは何か？」と続け、スペイン語があがったら、スペインは多くの植民地をもっていたので話す人が多く、創設当時20以上の加盟国で話されていたことを解説した。

(3) 安保理 常任理事国

1973年より前の公用語（スペイン語以外）から想起される国（アメリカ、イギリス、フランス、中国、ロシア）の国連での役割を問い、教科書p.177「⑦国連のしくみ」で安保理の常任理事国であることを確認した。

国連設立の基礎になった大西洋憲章は1941年に英米共同で発表された。ここでは5大国について議論され、イギリスとアメリカはすぐに決まったが、中国、ソビエト連邦（以下、ソ連）、フランスについては疑問があったことを伝え、理由を考えさせた。中国については、「面積も人口も多い」、「多いだけではだめ」、「がんばって日本と戦っていた（日中戦争）」などと声があがった。「中国は日本とのねばり強い戦いが評価された。ソ連は？」と問いかけると、「ソ連は広い」、「社会主義国なので常任理事国にはしたくない」、「でも、世界平和のためにはしかたがないのでは」などの予想がでた。そこで、「ソ連は国際協調のためには常任理事国にせざるを得なかった。ではフランスは？」と再発問したところ、「ファッション」、「芸術」などの返答があったので、「フランスは1940年にドイツに敗れて降伏しており、アメリカが『大国』とは認められないと主張したが、イギリスが戦後のヨーロッパを立て直すパートナーとして強く要望して常任理事国となった」と解説した。

(4) 拒否権

大国間の協調なしには国連の存続自体が危うくなるという現実的判断から、5大国には拒否権がある。ここで生徒には「拒否権の行使回数が多い国ベスト5（1945年の設立～2012年まで）」を考えさせた。1位はアメリカ、ついでロシア、その下は中国、イギリス、フランスという回答が多かったのを確認し、『アドバンス中学公民資料』（以下、資料集）p.113「3 常任理事国の拒否権行使回数」(図)を提示した。

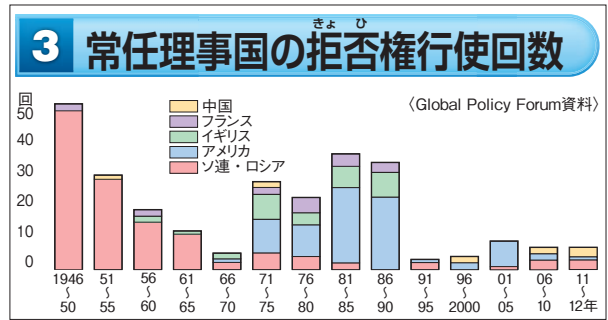


図 『アドバンス中学公民資料』 p.113

最多はソ連・ロシアの128回で、そのうち106回は1965年以前に行使されており、国連加盟国をめぐる決議での行使が多い。「なぜソ連は加盟国にこだわったのか？」と問うと、「自分の陣営に有利な国を加盟させたいから」、「社会主義国だから」と当時の国際関係をふまえた返答があった。そこで、当時は中国（国民政府）が常任理事国だったためソ連はほかの4か国から孤立していたこと、最近では、クリム（クリミア）半島編入問題や、シリア内戦についても拒否権を発動していることなどを解説した。

拒否権行使回数2位はアメリカの83回である。1970年以降、イスラエルを批判する決議での行使が多い（オバマ政権時には拒否権を行使しないこともあった）。以下、3位はイギリス(32回)、フランス(18回)、中国(10回)である。

拒否権の行使回数や時期、その理由などから、世界情勢を垣間見ることができ、「深い学び」が可能である。新学習指導要領の「現代社会の見方・考え方」のうち、「D 私たちと国際社会の諸課題」に関するものは、「対立と合意」、「効率と公正」、「協調」、「持続可能性」が提示されている（解説p.134）。単なる知識の習得だけではなく、教師の問いかけに対して、みずから資料を読み取って考え、「そのしくみはどのように決められたのか?」、「だれにとって都合が良いものだったのか?」、「当時や今日の社会にどのような影響を与えたのか?」など、グループでの対話を通して社会的事象を考察し、「見方・考え方」をきたえることが大切である。

喫煙は、あなたにとって心筋梗塞の危険性を高めます。
疫学的な推計によると、喫煙者は心筋梗塞により死亡する危険性が非喫煙者に比べて約1.7倍高くなります。
(詳細については、厚生労働省のホームページ www.mhlw.go.jp/topics/tobacco/main.html をご参照ください。)

上：写真2 あるタバコのパッケージの警告文
右：写真3 輸出用粉ミルクのパッケージ
(写真：株式会社 明治)



<第2時>

(1) 世界の人々の健康のために ～ WHO ～

① たばこから考えるWHO

日本では、たばこのパッケージには健康に関する警告の表示が義務づけられている。これは2003年のWHO総会で採択された「たばこの規制に関する世界保健機関枠組条約」にもとづき、たばこ事業法第39条とこれにもとづく財務省令が定めている。生徒に、たばこのパッケージにはどのような警告文が書かれているかを予想させ、一例を提示した(写真2)。かつてはこのような表示はなかったが、現在は、包装の主要な2面にそれぞれ30%以上の面積で表示するよう義務づけられていることを補足した。

② 粉ミルクのパッケージから考えるWHO

WHOは母乳による育児推進のためにさまざまな取り組みを行っている。1981年のWHO総会で「母乳代用品の販売流通に関する国際規準」(通称WHOコード)が承認された。生徒に「外国の粉ミルクのパッケージはどうなっているか?」と問うと、「丸々とした赤ちゃん」、「漫画の赤ちゃん」、「何も書いていない」などの予想が返ってきた。そこで、ある日本企業の輸出用粉ミルクのパッケージを提示し(写真3)、「絵や漫画ではなく当該国の言葉のみになっているが、なぜか?」と考えさせた。そのうえで、WHOコードができた背景等を以下のように伝えた。

安全な水や消毒設備が得にくい国々に粉ミルクが普及されると、下痢などでたくさんの赤ちゃんが亡くなった。粉ミルクによる育児を始

めたところ母乳が出なくなり(母乳は赤ちゃんが乳首をすう刺激で分泌されるため)、粉ミルクにたよらざるをえなくなったが買い続ける経済力がなく、うすく溶いたミルクを与えたために栄養失調で命を落とす赤ちゃんもいた。字が読めない母親がパッケージのイメージによって粉ミルクを購入するケースもあるため、WHOコードは「赤ちゃんの絵や写真を含め、人工栄養を理想化するような言葉あるいは絵や写真を使用してはならない」としている。そのため、WHOコードにもとづく法律が整備されている国々への輸出用粉ミルクは、文字のみのパッケージとなっているのである。

(2) 飢餓をなくすために ～ WFP ～

① 栄養強化ペースト

WFPは飢餓のない世界をめざして活動している。活動の一例として栄養強化ペースト(写真4)を提示し、1袋100gあたり500kcalで、ピーナツバターのようなペースト状の栄養強化食品であることを紹介する。袋の角を切り、切り口からそのまますって食べられるので、衛生的で保存性も高い。紛争地など食料が届けにくい場所にも航空機で散布できる。こうした栄養強化食品で、災害や紛争時の緊急支援、栄養状態の改善などに取り組んでいることを紹介した。



写真4 栄養強化ペースト(写真:筆者撮影)

表 学校給食のある人生とない人生 (WFPパンフレットより筆者作成) ※赤字は生徒の回答例

順番	学校給食のある人生	順番	学校給食のない人生
6	学んだ子どもたちの未来は広がる	5	低い賃金で生きるのがやっつ。将来に希望がもてない
3	十分に食べられるから、健康に成長できる	2	食べられなくて、病気になることもある
1	学校にやっつと通えるようになった	4	勉強をしたことがなく、読み書きも計算もできない
5	自分の将来に夢を描けるようになった	1	水をくんだり、家畜の世話をしたり、大忙し
4	読み書きを覚えたから、本を読んで勉強できる	3	ごみをあさったり、兵士にされたりすることも
2	栄養たっぷりの給食が食べられるようになった	6	未来の子どもたちも同じ苦しみが続いてしまう

② 飢餓人口を予想しよう

「飢餓で苦しんでいる人は、世界の何人に1人か？ また、世界の子どもの何人に1人か？」と問いかけた。答えはそれぞれ、9人に1人、4人に1人である。国連の報告書によると、2017年現在の飢餓人口は約8億2100万人。また、栄養不良で身長が年齢平均を著しく下回る5歳未満の子どもは約1億5100万人である。

③ 学校給食支援

資料集p.117「5 食料問題への国際的な取り組み」で、WFPの学校給食支援について読み、次のように学校給食の意義などについて確認した。「学校給食は、子どもを毎日学校へ通わせる重要なきっかけとなる。学校給食は子どものお腹を満たし、子どもは学習に集中できるようになる。子ども1人につき、給食は1日およそ30円。およそ5,000円で、1人の子どもに1年間給食を提供することができる。」

そして、「学校給食のある人生とない人生」について、それぞれ6つの項目(表)を班で話し合いながら時系列に並び替えることで、飢餓を救う給食、そしてその後の人生への影響を考えさせた。このワークショップは答えを出すのではなく、「1番で学校に通えるようになったから、2番は読み書きを覚える項目かな?」、「健康じゃないと勉強できないよ」、「健康になるためには給食が必要なんじゃないかな?」などと、相互討論を生むことが目的である。

最後に、WFP提供の映像資料「おなじそらのした」(約2分40秒)を視聴した。本動画は、学校に通い給食を食べている女の子と、貧しい

ため学校に行けず労働を強いられている女の子を対比させたのち、学校給食により貧しい女の子の生活がどのように変化するかを、切実性を持ち、臨場感豊かに表現した動画である。生徒からは「給食の大切さがわかった」、「後半の場面で二人の女の子が手をにぎりあっているのが印象的」などの感想があった。

3 おわりに

さまざまな国際機構を網羅的に扱うのではなく、「広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎」を育成することを目標に扱うことが大切である。また、国際社会にかかわる概念として、「協調」や「持続可能性」が提示されている。以上の概念を活用し、よりよい社会を築いていくために解決すべき課題を多面的・多角的に考察、構想し、自分の考えを説明、論述することも不可欠である。

(参考文献等)

- ・河原和之『100万人が受けた「中学公民」ウソ・ホント? 授業』(2012年, 明治図書)
- ・『入門WHOコード マンガでわかる国際規準』(母乳育児支援ネットワーク)
- ・坂東太郎『国際関係の基本がイチからわかる本』(2017年, 日本実業出版社)
- ・WFP提供の動画『おなじそらのした』(<https://www.youtube.com/watch?v=aPawrk9u84g>)
- ・国連機関の各種パンフレット、冊子など

帝国書院の指導者専用サイトに、
本授業研究のワークシートを掲載しています。
(<https://www.teikokushoin.co.jp/members/>)